

令和  
6年度

# COMPASS 天籟寺

## 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	COMPASS 天籟寺
○保護者評価実施期間	令和6年9月1日～令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 27名 (回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	令和6年9月1日～令和6年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 8名 (回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月25日

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の特性等に応じた支援ができるよう、面談等を通して保護者様から細やかに児童の状況を伺い、共有した情報を基に支援計画を立案し、同意を得た上で療育に当たっております。実際の療育では、児童の得意不得意や特性を確認しながら、接し方や教材・教具の工夫について職員間で話し合い、児童が課題に取り組めるよう努めております。	ミーティングでは、児童の様子を伝え合いながら次に活かせるようにしたり、経過を振り返りながら活動内容を話し合ったりしております。児童の利用時の様子をご家庭にお伝えする際は、できたことや頑張った様子だけでなく、うまくできなかったことやそのときの状況・対応などもきちんとお伝えし、児童の状況を共有できるよう努めております。	担当の相談支援専門員に支援に関するご意見を伺ったり、児童が通う学校や園の担任と児童の様子等の情報をやり取りしたりしながら、協力して児童の成長や自立に向けた支援が行えるよう、密な情報共有と連携を図ってまいります。
2	利用児童に対して、共感的な支援を心掛けております。一人ひとりの特性に応じた接し方を工夫し、児童間のやり取りを仲介しながら、集団活動の中で必要な補助を行い、一緒に行動するよう努めております。	一例として、児童に注意が必要な場面では、その内容を受け止められるように伝えたり、相手を手伝える行為が過剰になった場合には、児童の善意を認めつつ、相手の気持ちを大切にすることを伝えたりしております。当事者である児童の意思を尊重しながら、全職員が児童一人ひとりと向き合うことを大切にしております。	ご家庭での様子や児童の学校・園での生活の様子などの情報共有を図り、児童の特性や意思を尊重しながら、情緒面にも配慮した適切な言葉掛けや接し方を工夫してまいります。職員が関わる中で、児童自身が自分を大切にし、相手のことも思いやる意識を育めるよう取り組んでまいります。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各ご家庭単位では情報共有等の連携ができておりますが、父母の会等の交流会の開催ができておりません。	保護者交流会の開催に関しましては、平日では参加できる保護者様に限りがありますので、土、日、祝日等事業所の閉所日で設定する必要があります。従業者の振り替え休日を勘案すると平日の受け入れ体制に影響が出てしまう為、要検討課題と考えております。	まずは保護者様へ移行の確認を行い、実際に集合しなくても情報発信が出来る方法等を模索していく必要があると考えております。
2	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営ができておりません。	地域住民の方を招待する事に関しましては、現在の事業所の体制上では難しいと考えております。	地域で行われているイベント等への参加がまず取り組める方法であるかと思っておりますのでそのような情報を集約していきながら地域の方と関われる機会を設定していけるよう検討してまいります。
3			